

製品名: TAF II p18 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab18610**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:20000-1:40000

分子量

抗原情報

遺伝子名	TAF13
別名	TAF13; TAF2K; TAFII18; Transcription initiation factor TFIID subunit 13; Transcription initiation factor TFIID 18 kDa subunit; TAF(II)18; TAFII-18; TAFII18
遺伝子 ID	6884.0
SwissProt ID	Q15543
免疫原	抗血清はヒト TAF13 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 71-120

背景

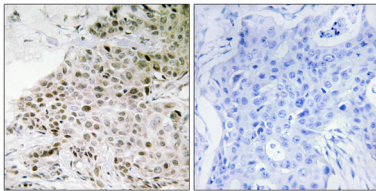
RNA ポリメラーゼ II による転写の開始には、70 種類以上のポリペプチドの活性が必要です。これらの活性を調整するタンパク質が転

写因子 IID (TFIID) です。TFIID はコアプロモーターに結合してポリメラーゼを適切な位置に配置し、転写複合体の残りの部分を組み立てるための足場として機能し、制御シグナルのチャンネルとして機能します。TFIID は、TATA 結合タンパク質 (TBP) と、TBP 関連因子 (TAF) として知られる進化的に保存されたタンパク質群で構成されています。TAF は、基礎転写に関与したり、コアクチベーターとして機能したり、プロモーター認識に機能したり、あるいは一般転写因子 (GTF) を修飾して複合体の組み立てと転写開始を促進したりする可能性があります。この遺伝子は、TFIID 複合体のサブセットに関連する小さなサブユニットをコードしています。このサブユニットは TBP および TFII の他の 2 つの小サブユニットと相互作用する。ドメイン: TAF10 と TAF11 の結合には、TAF13 の異なるドメインが必要である。機能: TFIID β 特異的 TAFII。類似性: TAF13 ファミリーに属する。類似性: 1 つのヒストンフォールドドメインを含む。サブユニット: TFIID は、TATA 結合タンパク質 (TBP) と複数の TBP 関連因子 (TAF) から構成される。TBP と相互作用し、特に TAF10 および TAF11 と強く相互作用する。、

研究分野

基礎転写因子;

画像データ



TAF13 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。